

News

電子情報通信学会 アンテナ・伝播研究専門委員会より表彰 「若手奨励賞」の受賞

The Young Researcher Encouragement Prize from Antenna & Propagation Society of IEICE

研究開発本部 研究所の常光 康弘 氏は、2007年12月13日(木)に電子情報通信学会のアンテナ・伝播研究専門委員会より、「若手奨励賞」として賞状を授与されました。

電子情報通信学会アンテナ・伝播研究専門委員会は、新しい情報通信社会を創造するべく、様々な無線システムに関する研究発表・報告と活発な討議を通して研究者、技術者および利用者相互間の交流・啓発の場として活動しています。

「若手奨励賞」は、本委員会より若手研究者のアンテナ・伝播に関する研究奨励と研究意欲向上のためアンテナ・伝播研究会に関連する各種発表の場において優れた論文を発表した登壇者に対し、表彰を行います。

なお、常光氏の受賞対象の研究会発表テーマは次の通りです。

研究会発表テーマ

1. スロット板交換型周波数帯選択逆相給電
一層構造導波管スロットアレーアンテナ
2. 階段状段差構造反射抑圧
導波管スロットアレーアンテナ

1.の内容は、比較的狭帯域であった導波管スロットアレーアンテナを、スロット板だけを希望する周波数帯域に合わせて数種類設計し、周波数帯が離れた場合でもスロット板を変えるだけでアンテナの利得低下を改善します。より安く広帯域に、低損失な導波管の適用領域が広がることになり、マイクロ波・準ミリ波・ミリ波向けに更なる発展が期待できます。

2.の内容は、進行波型スロットアレーの反射抑圧方法として、放射導波管広壁面底部に各スロットからの反射波を打ち消す階段状の段差を設け、さらに狭壁面高さがアレー終端に向かって低くなることを利用し、放射スロットをほとんどオフセットせずに電界一様分布を実現する発明です。

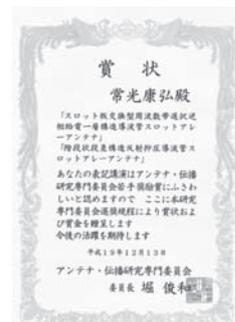
これにより、放射指向性において不要な方向へのサイドローブが低減され、利得周波数特性と開口効率が大きく改善されることを解析と実験により示しました。

以上、2件の研究会発表内容が高く評価されました。

これらの研究は、常光氏が当社の国内留学制度により東京工業大学の社会人博士課程に進学し、安藤 真 教授、広川 二郎 准教授の御指導のもとで行ったものです。



「若手奨励賞受賞」



「賞状」

本人のコメントです。

皆様の多大なるご協力の下、光栄にもアンテナ・伝播研究会より「若手奨励賞」を受賞致しました。

日頃支えて下さっている研究所アンテナグループ、RFコンポーネントユニットの皆様、成果を学会に発表できるような体制を整えて下さっている方々、助言を頂いている名誉教授 後藤尚久先生に深く感謝致します。

アイデア+解析+実験=結果の組み合わせを実現するには多くの方々の協力が必要不可欠です。皆様を代表して頂いた賞と思います。

個人的には、表彰されるということは、それに見合った成果を今後も出し続ける責務があります。会社、大学、日本、そして世界に貢献できるよう、私に出来ることをしっかりとやっつけていこうと決意を新たにす所存です。

皆様に感謝致します。とても嬉しいです。